

■各務支考 俳人。芭蕉十哲。世間の評価を気にしながら、多数の俳論書を著して地方普及に寄与した。

かがみしこう

諸宗寺院法度1665＝ 美濃山県郡北野(岐阜市)に生まれ、

酒井忠清大老1666＝ 1歳：

・・・・・・1674＝ 9歳：この頃、禅宗大智寺の雛僧となるが、

徳川綱吉將軍1680＝15歳：

八百屋お七・1683＝18歳：この頃、還俗した。

堀田正俊暗殺1684＝19歳：

生類憐令始・1687＝22歳：

湯島聖堂・・1690＝25歳：「おくのほそ道」の旅の続きで近江に滞在していた芭蕉に入門し、

別子銅山始・1691＝26歳：芭蕉が江戸に帰るのに同行、

世間胸算用・1692＝27歳：*「奥の細道」をたどる行脚に出て、芭蕉についての俳論書「葛の松原」を上梓し、「続猿蓑」の編集に協力して、芭蕉に高く評価される。

芭蕉+師宣没 1694＝29歳：*芭蕉最期の旅にも同行し、芭蕉が死去すると、追善の事業や、九州、中国をはじめ数次の北陸への行脚等を通して、俳壇形成や俳諧の理論的普及につとめ、美濃派の俳諧の確立に力を尽くす。

生類憐令頂点1695＝30歳：芭蕉追善の「笈日記」刊。

荻原勘定奉行1696＝31歳：芭蕉三回忌の追善法要。

吉保大老格・1698＝33歳：四国・九州へ行脚。

・・・・・・1699＝34歳：俳論書「続五論」。行脚等の成果として「西華集」「梟日記」、

・・・・・・1700＝35歳：芭蕉七回忌の追善法要。「東華集」刊。

松の廊下事件1701＝36歳：

赤穂浪士討入1702＝37歳：「東西夜話」刊。

団十郎刺殺・1704＝39歳：「三疋猿」刊。

御蔭参流行・1705＝40歳：山陽道行脚。大部の俳諧集「国の花」刊。

・・・・・・1706＝41歳：芭蕉十三回忌の追善法要で「東山万句」刊。

富士宝永噴火1707＝42歳：「南無俳諧」刊。

外ヶ崎拘束・1708＝43歳：「夏ころも」刊。

徳川綱吉没・1709＝44歳：「越の名残」「白扇集」刊。

・・・・・・1710＝45歳：芭蕉十七回忌の追善法要。

冥途の飛脚・1711＝46歳：「つれづれの讃」「阿誰話」「東山墨なをし」「山中三笑」。*自ら終焉記を作って世間の評価を窺い、死去を装って郷里に退去。その後は門人蓮二房・白狂等の名で著述し、自己の業績を称揚したりする。

国姓爺合戦・1715＝50歳：芭蕉二十三回忌の追善法要。「発願文」刊。

徳川吉宗將軍1716＝51歳：

御蔭参流行・1718＝53歳：俳文や仮名詩の実作と理論「本朝文鑑」刊。

・・・・・・1719＝54歳：俳論書「俳諧十論」刊。

この間25年のうちに十回以上、北陸を旅している。

火の見櫓制・1723＝58歳：「難陳二百韻」刊。「口状」成る。

・・・・・・1725＝60歳：俳論書「十論為弁抄」。_芭蕉三十三回忌の追善法要で、大部の「三千化」を刊行。

・・・・・・1727＝62歳：俳文や仮名詩の実作と理論「和漢文操」刊。

徂徠没・・・・1728＝63歳：「削かけの返事」成る。

・・・・・・1730＝65歳：「俳諧古今抄」刊。

・・・・・・1731＝66歳：_没した。

「芭蕉翁追善之日記」、その他追善集に廬元坊編「文星観」「渭江話」等がある。